



【短歌】  
楠瀬 兵五郎 選

温もりの残れる岩に身をよせて沓き声きく青あをと海  
 自負心の支えに生きし歳月はモンペ地下足袋九十三歳  
 とにかくも生きゆく日々の力あれサッシユ戸に赤々と寒の椿は  
 立ち並び最敬礼してお詫びするパフォーマンスは使用済みです  
 タマの椀野良が相伴するといふ隣の老いはかうも猫好き  
 亡き父の草笛恋ひつつふるさとの畦道あゆむ風に抱かれて  
 忙しさに構ふことなく過ぎ来り口には出さず心に詫びる  
 秘めしこと待ちて明かせる時の来て重き問は身を放れたり  
 髪ゆらし自転車ふみゆく処女子は吾に会釈をして過ぎゆきぬ  
 彼岸花のみどり艶やけき日だまりに古き風車の休みては舞ふ  
 「おばあちゃんのおひなさまみたい」神棚を雛の御殿と幼子の言う  
 節分の豆はどうしよう撒かずとも小豆煮ており餅に入れて食う  
 虎友のメール届きて打ち返す方法孫に教え乞う夫は  
 若ければの思ひは常に吾にあり理学療法士はまばゆきばかり  
 歩道橋の直下に鳴門の渦開き遊覧船たゆたう渦の見応え  
 退院の時一步も歩けぬ夫の足今は嬉しい五十歩百歩  
 遠き日の父母の姿思ふかな畑を打ちある寒風の中  
 今年の冬余り寒くもないままに木に来る鳥にミカンはやらす  
 久々に粉雪舞い散るこの里に寒を覚えてたき火楽しむ  
 まっすぐにまっすぐに伸びて下さいと見に読み聞かす児らの瞳に  
 家の上に家の下に桃の花咲けりくれなるにほひ満ちゆくころ  
 忽ちに水田となりて水光り立つさざ波に天の映れる  
 寒かれど連峰すでに春の色胸のしこりがほどけるごとく  
 どうぞねと夜ごと電話に問ひくるる娘の声に安らぎねむる

小松もとみ 鍵山 みつ 坂上のお子 山下 弓枝 三宮のり子 大石紗智子 都築 初代 門田 喜美 田村 房子 岡林 華伝 古谷 由美 伊藤 清子 大石 信子 小野川恵仁 高野 和一 公文多賀子 小原 子川 小野寺朱実 公文 千恵 吉本 悦子 谷内 務 山崎 貴子 萩野多美子 有沢 泰子

健康にドコサヘキサエンを宣伝したまたグルコミンとコンドロイチン  
 ふるさとの川石あまた砕かれて吊られてゆきぬダム造る場に  
 葉付きのまま人參を子に送ったり幼らかかけ踊りたるとぞ  
 夕焼けの色映りある陸橋をスカーフ巻きし少女が渡る  
 枝打ちて松のびたり深ぶかと雨の恵みに森は育ちぬ  
 忸怩たる思ひ抱きてかへる径雲切れて大星がまたたく  
 曖昧な記憶をたどり古里の山に立合ふ地籍調査に  
 北川の広き山野の福寿草冬陽を浴びて凜と咲きたり  
 菜の花に雪割桜 桑田山のだんだん畑に先がけの春  
 玄関のガラスケースの雛さまに節句迎へし孫ものを言ふ  
 スクリーンにめぐみさんの顔映り居る老いゆく父母の心を思う  
 夕闇のしずまる戸外何気なくのぞけばちかちか光る金星  
 供花にと選びしゆりはオレンジ色見る程に友のイメージとなる  
 取り入れに干場にゆけば干してない洗濯機の中に洗われしまま  
 たわいない話に笑い友等との猪鍋かこむ湯治の一日  
 池の鯉物部川より引き入れる水のぬるむをじつと待つ日々  
 鯨食べ大物になると願ひし年病癒え笑顔の日々が続けり  
 やぶ椿茂りて輝く向う山この暖冬に花多く咲けり  
 暖冬に野菜はほこり木蓮も早く咲きたりわが朝の道  
 めつきりと小鳥の減りしわれの庭今日は羽ばたく鳩も雀も  
 ファミリアの通所の日をば間違えしわれなさけなしこの記憶力  
 菜の花は暮れより咲くといふ声すみ崎に南下する鳥もなく  
 運転の掟をまもり吾初心もみちマークに感謝をしつつ  
 先づ息を吐きて吸ひ込み発車の笛吹けばびびけり新車掌さん  
 伊方原発ドームを遙か見下ろせば昇り来る芽吹きさの匂ひ生ぐさかりき

大石 綏子 北村佐喜子 公文 正子 高橋 章 武内 弘子 竹村 咲子 出原 久子 門田 明子 松中 賀代 古川 安子 竹村 稔美 秋山 正美 佐々木真里 山崎かつみ 坂本 好 森本真理子 大利佳都香 山崎 緑 尾立 かよ 横田直加子 竹村 松子 佐竹 玲子 法光院俊子 町 耿子 楠瀬兵五郎

※俳句・短歌の応募は、企画課内広報委員会事務局まで。

香美市立美術館

# アートの窓



## 内田晴之 彫刻展

5月12日(土)～6月10日(日)

一九五二年、静岡県生ま

れの内田晴之は、京都精華短期大学立体造形専攻科終了後、第五回京都府文化賞新人賞(八七年)、倉吉市緑の彫刻プロムナード特別賞(九一年)、第六回京都美術文化賞(九三年)、韓国国立現代美術館賞(九四年)、第二十九回中原悌二賞優秀賞(九八年)の受賞をはじめとして、数多くの展覧会で受賞を重ねている彫刻家です。金属とマグネット(磁力)を使った作品は、国内外の高い評価を得ています。これまで、野外の巨大な作品を数多く手がけていますが、そのシャープな形と色に加えて、マグネットの磁力によって空間に浮いたり、斜めに静止したり、重力をまったく感じさせない不思議な作品になっています。

ます。

写真の彫刻『静止する形』

は、アルミ合金にマグネット、御影石を使った長さ四メートルの大きな作品です。アルミ合金の表面にはどこされた波形の凹凸により、素材が金属であることを忘れてしまうほど周囲の環境と一体化し、波形の織りなす微妙な光と影が、自然のゆらぎに共鳴しているかのようです。しかし、しばらく観ていると、右側の立体が床面に着いていないことに気づき、驚きます。

作家の研ぎ澄まされた感覚が、野外の広い自然の中で、また、屋内の空間の中



『静止する形』内田晴之 (撮影：畠山崇)

で反発したり、共鳴したり、さまざまな表情を見せてくれる彫刻たち。他に類のない新鮮な驚きが、観る楽しさを倍増させてくれます。

五月十二日(土)十三時からのオープニングセレモニーと、十三時三十分からの作家によるギャラリートークは、どなたでもご参加いただけます。(要入場料)

モダンでオシャレな彫刻をお見逃しなく!皆さまのご来館をお待ちしています。(館長・北 泰子)

吉井勇記念館

## 猪野々地区歌碑めぐり

漂泊の歌人・吉井勇が愛

した香北町猪野々。傷心で猪野々にやってきた勇は、

後に、「猪野々に住むことによつて人間修行ができました。里人の人情で立ち直ることができました」と著書に記しています。勇にとつ

て猪野々は、失意の底から生きる希望を見いだした地、まさに人生の転換期を迎えた場所であったといえます。

現在、猪野々には14基の歌碑が点在し、轟の滝や永瀬ダム、大柝の町を見下ろし、御在所山を仰ぎながら地区を一周すると、これらの歌碑全てを廻ることができ

ます。更に平成14年、15年には永瀬地区にも2基の歌碑が建てられました。

勇の足跡をたどり、穏やかな山里の風景を愛でながら、勇の歌に親しんでみませんか。

【日時】5月20日(日)

・集合：9時(香美市役所)

本庁)

・日程：吉井勇記念館↓歌碑めぐり↓轟の滝(昼食)↓歌碑めぐり↓吉井勇記念館

・解散：15時30分(香美市役所本庁)

【募集人員】20人

【参加費】1300円(入館料・昼食弁当含む)

【申込方法】はがき、電話、ファックスのいずれかで、申込者の住所・氏名・電話番号を次の申込先へご連絡ください。

※当日市役所本庁からのバスを利用せず、記念館に直接来館される方は、その旨をお書きください。

【申込締切】5月16日(水)

【申込・問い合わせ先】吉井勇記念館

「歌碑めぐり」係

〒781-1424

香美市香北町猪野々514

TEL 58-2220

FAX 57-5995